

焼酎日記

六 杯 目

花を、愛でる

北へ、南へ

引越しシーズン。

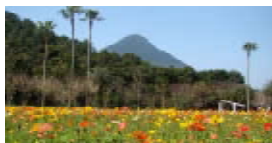
「荷物は少ないから楽勝、楽勝」と思っていたらとんでもなかった。

一週間がかりでなんとか済ませ「さあ、引越し祝いの花見酒だ〜！」と、家族で近くの公園へ行く。漆黒の夜空に浮かぶ淡雪のような桜は、可憐で奥ゆかしい日本の美だ。

イギリスでアーモンドの花が咲いているのを見た時、桜そっくりな姿にカン違いをして大喜びしたっけ。

花冷えの夜桜には、身体の芯から温まる芋焼酎のお湯割りがお勧め。

南の方と水を半々で割って二晩置いた正統派の「前割り」を温めて飲むと、香りが柔らかく



喉越しもまろやかで美味しい。しかし屋外ではさすがにポットを持参する。ちらし鮎をいただきますながら夜桜に酔う晩も、おつていいね。

久しぶりの快晴の日曜日は、花に癒されよう〜と「フラワーパークかごしま」に初めて出かけた。

ロンドン郊外のリッチモンドパークのような自然そのものを生かした空間造り。その中でもシヤクナゲの森は、光りとマイナスイオンの潤いが教会で聴くバロック音楽のように共鳴して、身体のすみずみへ浸透していく……心地いい。

ふと見上げると開聞岳。すそ野にはサツマイモ畑がどこまでも続いている。

温かい南薩摩の風土、私のお気に入り「薩摩焼酎・南の方」のふるさとに思わずカンパ〜イ！

Natsumi